

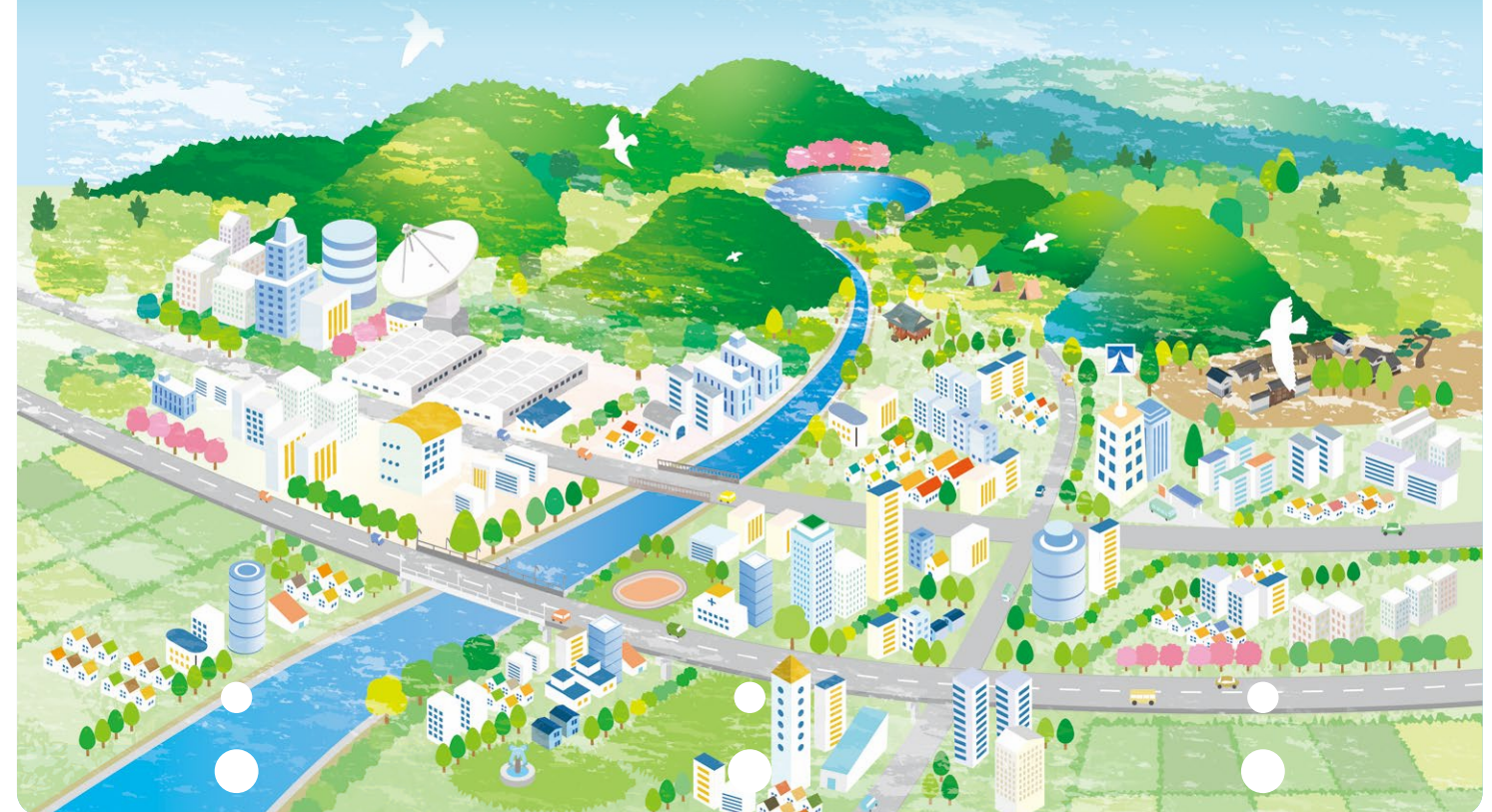
大和町第五次総合計画（改訂版）

2022
↓
2031

概要版

七ツ森の輝く緑
元気なくらしが広がる大和町

～しあわせめぐるまち たいわ～



宮城県大和町

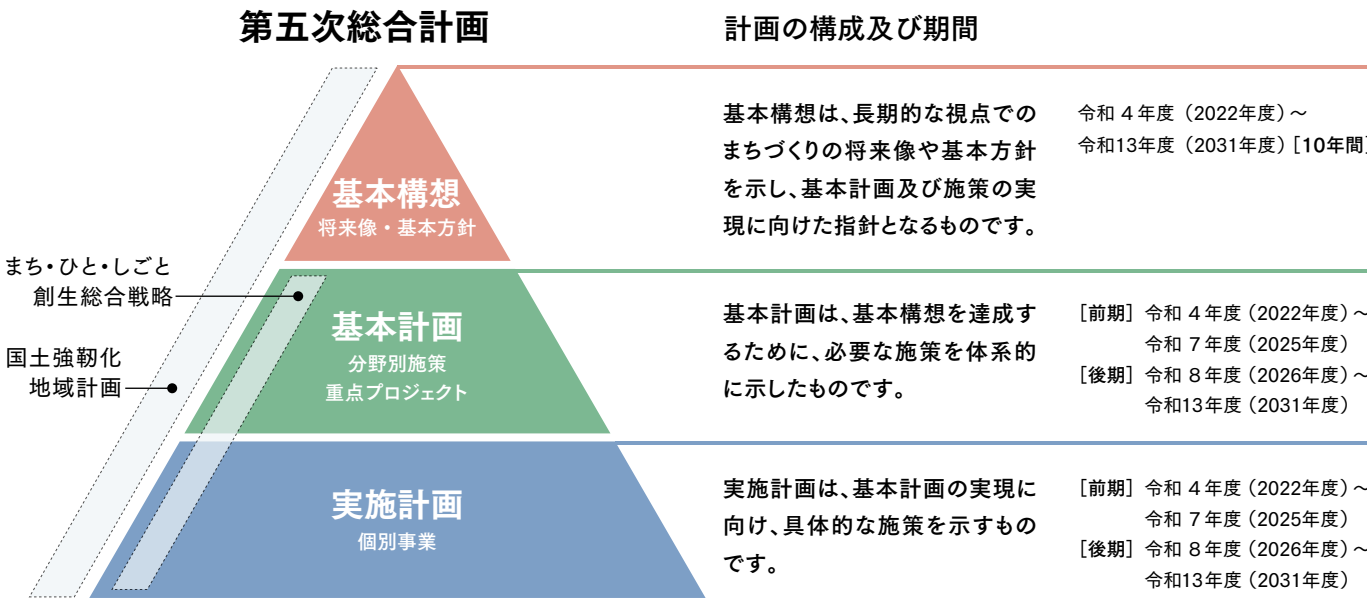
計画の趣旨

前計画の第四次総合計画では、富県宮城の一翼を担う「みやぎの中核都市・大和」の実現に向け、町民のみなさんが誇りと愛着を持って住み続けられるまちづくりを進めてまいりました。令和5年度の目標年次までに、産業集積による人口増加や市街地の整備などにより町は飛躍的に発展してきました。

しかし一方で、既成市街地の活力の低下、地域人口の偏りといった課題も顕在化してきており、産業のさらなる活性化や市街地のにぎわい創出をはじめ、地域の特性を活かした施策を打ち出していく必要があります、さらには、大きく変化する社会的な潮流に的確に対応するために、計画期間を2年前倒しして第五次総合計画を策定しました。

計画の位置付けと役割

本計画は、町のすべての計画の基本となるもので、町民だけでなく、民間事業者や教育機関などの関係者のみなさんと行政が共に歩むまちづくりの方向性を示す、長期的な町政運営の指針となる最上位の計画です。



計画改訂の考え方

まちづくりに参画するみなさんの意見を十分に伺いながら、共に改訂していく必要があり、計画改訂にあたっては次の項目を重視しました。

町へのニーズなどを捉えた計画改訂	町では令和6年12月から令和7年1月にかけて、町民・企業・中学生・高校生・大学生を対象としたアンケートを実施しました。
ワークショップによる多様な視点での計画改訂	ワークショップ(住民懇談会)には町内企業にお勤めの方や黒川高等学校生徒、宮城大学生など、関係人口の方々にも参加していただき、多様な視点から町政の方向性を導く計画としました。
時代の潮流を意識した計画改訂	デジタル産業などの技術革新をはじめ、自然災害の激甚化・頻発化やグローバルな経済環境の変化など、今後の課題などを見据え、時代の潮流を意識した計画としました。
地域の特色を捉えた計画改訂	ワークショップ等を通じて得られた吉岡、宮床、吉田、鶴巣、落合の5地域の現状や課題を踏まえ、今後5年間における各地域のまちづくりの方針を示す計画としました。



施策体系



基本方針

1 産業・自然・環境

豊かな自然を活かし
人と人をつなぐ
にぎわいのまちづくり



本町の豊かな自然資源を活用した観光の振興と、自然環境への負荷に配慮した産業振興を図り、持続可能で調和の取れた町の発展を目指します。

引き続き企業誘致を推進して立地企業と既存企業による経済の好循環を図り、町内において働く場の確保に努めます。さらに、農林漁業や商業の担い手確保に取り組むとともに、商店街等の活動の拠点となる広場等の整備などにより、集客効果が商店街から町全体に波及することで地域経済の持続的な成長を促進し、人と人との集いにぎわいのあるまちづくりの実現を目指します。

施策の分野			
農林漁業	商業	工業	観光
雇用	自然環境	生活環境	

2 子育て・保健福祉・教育

一人ひとりが
健やかに育ち暮らせる
まちづくり



一人ひとりが心身ともに健康で充実した毎日を送ることができるよう、子育て・医療・保健福祉等のサービスの充実や提供体制の構築などの推進を図ります。

また、町の未来を担う子どもたちが、健やかに育ち学び、大和町に生きる幸せを実感し、生きる力を身に付け、夢や目標を抱き成長する環境を整えとともに、子どもからお年寄りまでの幅広い世代や、障がいを持った方などが様々な分野について学ぶ機会を持てる生涯学習の充実などにより、町民のみなさんが生きがいを持ち、いきいきと暮らせる笑顔あふれるまちづくりに取り組みます。

施策の分野			
地域福祉	子育て	高齢者支援	障がい者(児)支援
健康づくり	学校教育	生涯学習	

3 防災・定住・協働

みんなでつくる
安全に住みつづけられる
まちづくり



町民のみなさんが安全・安心に暮らすことのできるまちをつくるため、過去の自然災害を教訓としながら、防災・減災に対応した環境を整備するとともに、災害による被害を減少・軽減するための対策、そして犯罪や交通事故等を未然に防ぐための対策などを講じます。

また、産学官民が連携・協働して便利で快適な居住環境の整備や地域コミュニティの強化などに取り組み、町民のみなさんが安全・安心に住みつづけられるまちづくりを推進するとともに、移住・定住の促進により町や地域のさらなる活性化を図ります。

施策の分野		
市街地・地域拠点	住環境	防災
防犯・交通安全	町民参画	行政運営

重点プロジェクト（第3期 大和町まち・ひと・しごと創生総合戦略）

基本目標1 安心して働き、 暮らせる 生活環境を つくる	(1) 職住近接まちづくりプロジェクト	(2) レジリエンス※1強化プロジェクト
	主な取組(事業) ・雇用機会掘り起こし事業 ・中心市街地整備事業 (吉岡西部土地区画整理事業) ・縁結び応援事業 など	主な取組(事業) ・準用河川等整備事業、田んぼダム推進事業、公共下水道施設(汚水・雨水)のアセット(ストック)マネジメント・耐震化事業 ・防犯対策推進事業 など
基本目標2 稼ぐ力を高め、 付加価値創出型 の新しい経済を つくる	(1) 農林水産業振興プロジェクト	(2) 産業促進プロジェクト
	主な取組(事業) ・農業環境整備事業 ・新規就農支援事業 ・農業用機械整備事業 など	主な取組(事業) ・企業誘致事業 ・地域経済支援事業 ・奨学金返還支援事業 など
基本目標3 大和町への 新しい人の 流れをつくる	(1) 交流促進プロジェクト	(2) にぎわい創出プロジェクト
	主な取組(事業) ・ひとづくりプロジェクト ・各種検定料助成事業 ・移住定住応援事業 など	主な取組(事業) ・道の駅の整備検討等 ・セツ森湖周辺再整備事業 ・歴史資源を活かした観光PR事業 など
基本目標4 AI・デジタル等 の新技术を 活用する	(1) デジタル・新技术の社会実装プロジェクト	(2) デジタル技術の利活用プロジェクト
	主な取組(事業) ・コワーキングスペース、サテライトオフィス等の環境整備の検討 ・SNS等の活用促進 ・町民アンケート等のデジタル化 など	主な取組(事業) ・オンライン申請の拡大 ・施設予約システムの導入 ・窓口手続きのキャッシュレス化 など

※1 元は「弾力」「回復力」を意味する言葉で、防災における「レジリエンス」は実際に災害が起きたときの対応力や、被害を最小限にし、素早く復旧し、長期的に強化していく一連の能力。

地域別まちづくりの方針

本町は、昭和30年4月に1町4カ村が「大きな和の町」を掲げて合併し、誕生しました。現在は、吉岡・宮床・吉田・鶴巢・落合の5地域で構成されています。

各地域は、それぞれ固有の資源と特色を有し、直面する課題も異なることから、地域の強みを最大限に活かし、それぞれに適した持続可能なまちづくりを推進する必要があります。

このため、各地域における拠点の整備を進めるとともに、拠点間を結ぶ公共交通等のネットワーク構築を検討します。



1

吉岡地域

町の中央に位置し、土地区画整理により良好な住環境が形成されています。一方で旧市街地では空き家・空き店舗の増加や商店街の衰退、歩道の安全性確保が課題です。今後は旧市街地の活性化や安全で快適な歩行空間の確保、未利用地の有効活用などを検討します。また、吉岡西部での流通・業務系の土地区



画整理を推進するとともに、幹線道路沿いへの道の駅や子どもの遊び場等の整備検討を通じて、地域の賑わいと活力の創出を図ります。

主な取組

- ・吉岡地区道路整備方針等による安全安心な歩道空間の確保及びにぎわい等の創出
- ・公共施設等の再利用及び再配置計画の検討
- ・コンパクトシティ*の形成による行政の効率化
- ・未利用地の有効活用
- ・吉岡西部土地区画整理事業やその周辺における土地利用方針の検討
- ・道の駅、娯楽施設、子どもの遊び場等の整備検討

※ 都市機能や居住を一定範囲に集約し、公共交通と連携させることで、人口減少社会に対応しながら持続可能で効率的な都市構造を実現する都市計画の考え方。

2

宮床地域（もみじヶ丘・杜の丘・しあわせの杜含む）

豊かな里山と歴史資源に恵まれた地域です。もみじヶ丘等の南西部の住宅地は仙台への近接性と生活利便性に優れていますが、既存集落では人口減少や鳥獣被害などが課題です。今後は移住促進や歴史資源活用による活性化を検討しま



す。また、大和リサーチパーク周辺では、地理的優位性を活かした流通・工業団地の整備を推進し、先端技術産業の集積を進めることで、県内を代表する生産拠点としての基盤強化に努めます。

主な取組

- ・企業誘致の推進
- ・新たな産業用地（工業団地等）の整備
- ・育成就労制度など外国人人材の受け入れ支援
- ・朝夕の渋滞緩和策の検討
- ・移住・定住策等による地域コミュニティの維持
- ・農林水産業に対する補助事業拡充
- ・町内農産物による地域経済の循環
- ・新たなスポーツイベント等の企画
- ・歴史的資源の利活用

3

吉田地域

船形山や七ツ森など豊かな自然に恵まれた西部地域で、大部分が県立自然公園に指定されています。七ツ森湖の周辺には各種観光・レクリエーション施設が点在しますが、人口減少や農林漁業の担い手不足、鳥獣被害、農業用施設の老



朽化などが課題です。対策として、移住施策や土地改良事業による農林漁業の振興を図ります。併せて、自然環境の保全に配慮しつつ、ダム周辺を観

光・交流拠点として再整備し、自然体験型観光や森林環境学習の推進によって地域の活性化を目指します。

主な取組

- ・移住・定住策等による地域コミュニティの維持
- ・農林水産業に対する補助事業拡充
- ・七ツ森湖周辺の再整備
- ・町内農産物による地域経済の循環
- ・教育ふれあいセンターの利活用検討
- ・地域内交通手段の検討

4

鶴巢地域

東南部に位置する県内有数の穀倉地帯です。地域の大半が市街化調整区域のため建築制限となっており、人口減少・高齢化の進行、山砂採取跡地の復旧・活用などが課題となっています。今後は移住施策や国営土地改良事業による内水排除対策、各法規制、周辺環境との調整を行い、持続可能な農業の振興を図ります。また、令和7年度に埋立て終了予定の



産廃処分場跡地の適切な利活用を図るとともに、令和9年度供用開始予定の新処分場についても、県等と連携し継続的な管理・運営に関与します。

主な取組

- ・移住・定住策等による地域コミュニティの維持
- ・市街化調整区域における地区計画策定の検討
- ・農林水産業に対する補助事業拡充
- ・町内農産物による地域経済の循環
- ・教育ふれあいセンターの利活用検討
- ・地域内交通手段の検討
- ・朝夕の渋滞緩和策の検討
- ・新たな産業用地（工業団地等）の整備検討
- ・雨水内水対策措置の検討 など

5

落合地域

北東部に位置し、県内最大規模の工業団地群を有し、自動車関連産業をはじめ多様な企業が集積しています。一方、旧来の既存集落では、人口減少や農業の担い手不足、農業用施設の老朽化などが課題であり、移住促進や国営・県営事業による農業基盤の再整備を進めます。工業団地周辺では、開発需要や農業環境との調整を図りつつ、更なる流通・



工業団地の整備を推進します。先端技術産業の集積を進め、「富県宮城」の一翼を担う生産拠点として一層の基盤強化に努めます。

主な取組

- ・企業誘致の推進
- ・新たな産業用地（工業団地等）の整備
- ・育成就労制度など外国人人材の受け入れ支援
- ・移住・定住策等による地域コミュニティの維持
- ・農林水産業に対する補助事業拡充
- ・町内農産物による地域経済の循環
- ・教育ふれあいセンターの利活用検討
- ・地域内交通手段の検討
- ・朝夕の渋滞緩和策の検討
- ・雨水内水対策措置の検討